

令和2年度自己評価計画に係る中間評価

重点目標	具体的取組	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	7月集計結果	分析と課題	
1	生徒の学力向上に向け、BYOD (Bring your own device) を効果的に活用しながら授業力の向上を図る。	① 授業や朝学習等においてClassiの課題配信機能、動画配信機能、eポートフォリオ機能やロイロノート等BYODを効果的に活用し、学力を向上させる。	【満足度指標】 授業等においてBYOD（各自のスマートフォン）が効果的に活用されていると考える生徒の割合を高める。	A 肯定的な評価が80%以上 B 肯定的な評価が70%～79% C 肯定的な評価が60%～69% D 肯定的な評価が60%未満	C評価 (66.7%)	BYODの活用の多寡に教科・指導者によって差がある。教科の特性に応じ積極的に活用を進めたい。
			【成果指標】 年3回実施する基礎力診断テスト3教科のゾーンの底上げをはかる。	A 4月に比べ+2以上 B 4月に比べ+1 C 4月と同じ D 4月に比べ-1以下		
			【満足度指標】 生徒がいじめのない安心できる学校生活を送ることができる。	A 肯定的な評価が80%以上 B 肯定的な評価が70%～79% C 肯定的な評価が60%～69% D 肯定的な評価が60%未満	A評価 (87.2%)	きめ細かな指導・面談の実施により昨年度末より約10%評価が上がった。今後も安全安心な学校にしていくため努力したい。
			【努力指標】 教員による効果的なICTの活用や業務の Slim化等によりワークライフバランスを意識する。	A 肯定的な評価が80%以上 B 肯定的な評価が70%～79% C 肯定的な評価が60%～69% D 肯定的な評価が60%未満	A評価 (91.7%)	学校評価等のアンケートの際にICTを活用することにより、処理にかかる時間を大幅に縮減することができた。今後も効率化を進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価						
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法						
2	生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、家庭での学習時間を確保する。	① 学習以外の用途でのスマートフォン等使用時間について、生徒に主体的に考えさせ、家庭での学習時間を確保させる。	【努力指標】 生徒一人一人の負荷を考えながら、生徒に適切な量及び内容の課題を課すことができる。	A 肯定的な評価が80%以上 B 肯定的な評価が70%～79% C 肯定的な評価が60%～69% D 肯定的な評価が60%未満	D評価 (41.7%)	生徒の学力向上のため、必要な課題の質と量について一層検討していく必要がある。
			【成果指標】 スマートフォン等の使用時間を生徒が主体的に制限することができる。	A 1日平均4時間未満 B 1日平均4時間以上、5時間未満 C 1日平均5時間以上、6時間未満 D 1日平均6時間以上		
			【成果指標】 生徒が1日1時間以上の学習時間を確保している。	A 1日平均1.5時間以上 B 1日平均1時間以上、1.5時間未満 C 1日平均0.5時間以上、1時間未満 D 1日平均0.5時間未満	C評価 (35分)	1, 2年の学習時間が少ない。学校側で生徒が家庭で学習すべき内容、課題を精選して提示すべきである。
学校関係者評価委員会の評価						
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法						
3	同窓会や地域の支援も受けながら、生徒の進路意識を高め、進学や就職につなげる。	① 特に近年本校を卒業し、進学・就職した、生徒にとって身近なOB、OGを中心に支援をいただきながら、生徒の進路意識を高める。	【成果指標】 1年、2年における進学又は就職の希望未決定者割合をそれぞれ10%以下、5%以下とする。	A いずれの目標も達成できた B 片方の目標を達成できた C どちらの目標も達成できなかった	C評価 2年(20.8%) 1年(21.5%)	休業が長引いたため、十分な進路に関する面談ができなかったこともあり、残念ながら現状では進路意識の向上には至っていない。年度末にはより高評価になるよう方策を講じたい。
			【成果指標】 3年生の4年制大学進学者7名以上、就職希望者の就職決定率100%を達成する。	A いずれの目標も達成できた B 片方の目標を達成できた C どちらの目標も達成できなかった		
			【満足度指標】 本校に進学して良かったと考える生徒、子どもを進学させて良かったと考える保護者の割合80%以上を目指す。	A 肯定的な評価が80%以上 B 肯定的な評価が70%～79% C 肯定的な評価が60%～69% D 肯定的な評価が60%未満	生徒 A評価 (90.1%) 保護者 A評価 (97.7%)	予想以上の高評価であった。今後とも生徒・保護者の期待に応えるべく教育活動を進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価						
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法						